

# 課題解決に向けた行動計画

## 熊本大学病院

2022年度  
第2回地域緩和ケア連携調整員研修（ベーシックコース）

### 【チームメンバー】

参加施設・所属	氏名（職種）
熊本大学病院	武笠 晃丈（医師）
	上田 直美（看護師）
	安達 美樹（看護師）
	内重 真由美（MSW）

①双方向に患者の  
思いや気持ちを  
共有できる地域を  
目指して

**【課題】**

患者の住み慣れた地域へ移行した後に、患者が治療やケアに対して満足していたのかどうか知る術がない。

終末期を迎えた患者の気持ちや思いを  
フィードバックする仕組みづくり

➤ **地域緩和ケア移行後のカンファレンス実施**

必要度の高い症例において退院後1ヶ月を目安にカンファレンスを実施し、院内・地域と共有し、個別ケアの実践を深めていく。

**【活動計画】**

- ・実施要綱を作成し、県がん診療連携協議会緩和ケア部会の承認を経て、周知を図り、関係団体と調整する。
- ・地域医療連携センターを中心に、R5年度中に活動開始を目指す。

➤ **地域と共有できるツールの作成**

患者が治療やケアに対して満足していたかどうか地域で共有するためのフォーマットを作成し、KMNに掲載し県下全域での活用を目指す。

**【活動計画】**

- ・R5年度開催の県がん診療連携協議会緩和ケア部会の承認を経て関係団体との調整を図っていく。
- ・フォーマット作成については、緩和ケア連携調整委員会に諮問し、共通理解が得られたものを活用する。
- ・R5年度内にフォーマットを作成する。

②地域緩和ケア  
において  
円滑で十分な  
多職種連携がとれ  
る地域を目指して

**【課題】**

いつ、どこにいても緩和ケアをうけることができるように、緩和の知識や技術をもった医療人の育成や緩和ケアの普及、地域との協働が不可欠である。

➤ **緩和ケアチーム研修とリンク  
させた病院訪問の実施**

本県における緩和ケア提供体制発展事業の柱のひとつである「人的・組織的充実」を図るために、県がん診療連携協議会緩和ケア部会主催の緩和ケアチーム研修会を開催する。病院訪問活動を実施し、顔の見える関係構築、多職種交流、困っていることなど情報共有を行う。

**【活動計画】**

- ・ R5年度中に緩和ケアチーム研修会を1回開催
- ・ 事前アンケート調査を実施し、各施設・周辺地域、県全体の課題を可視化する。

アンケート項目

- ①今後実行したい院内での緩和ケアの取り組み
- ②周辺地域での緩和ケアの取り組み
- ③ACPIに関して院内・周辺地域での取り組みや課題
- ④県全体で話し合っていきたいこと

・ 研修修了後に病院訪問を実施し、各施設・地域の課題に対する取り組み状況を共有する。

### ③緩和ケアにおける 医療資源の 地域格差の是正を 目指して

#### 【課題】

住み慣れた地域や自宅で安心して最期まで自分らしい生活がおくれる地域システムの構築が急務であるが、本県は医療資源の地域格差が懸念されている。

### ➤ 地域緩和ケア連携調整委員会の設置

地域緩和ケア連携調整員研修（本研修）を受講した県内の病院を対象とした委員会を県がん診療連携協議会緩和ケア部会の下部組織に設置。各施設・地域の課題や取り組み状況について共有する場づくりを行い、課題解決に向けた取り組みについて検討する。

#### 【活動計画】

- ・過去に地域緩和ケア連携調整委員研修を受講した病院を対象に、今年度キックオフミーティングを開催する。
- ・本研修受講後の各施設の活動状況を共有する。
- ・委員会は定期的に継続的に開催する。
- ・共通課題を見だし、共に取り組むべき課題を明確にし、解決に向けて関係する団体とのコーディネート機能を果たしていく。